



「私も先生！」最終回を迎えて

代表 大森 正子

2011年9月、34年半務めた職場を定年退職し、これからは地域活動なるものをしてみようと、そのヒントを得るために、相互ボランティアの会である地域通貨「ピース」に入会させていただきました。そこで清瀬市には市民が中心となって活動しているボランティア・市民活動がたくさんあることを知ったのです。

そして自分なら何がと考えた時、自分が共感し多くの人に知ってもらいたいことを紹介する、知ってもらうことでその活動が更に発展する、それに刺激されて新たな活動が生まれる、そんなバブルのような地域力起こしができたらなんと素敵なことだろうと。

さて、それを実現するために自分ができることは何か。研究機関に勤務していた経験から、人前で話すという経験がない方には、発表に際して、まとめ方や技術的なお手伝いならできるのではないかと。

第1弾は「ダイオキシン汚染から15年、いま清瀬の環境は？—産廃施設と住民運動の記録—」にしました。

ダイオキシンが飛んでくる！



1997年

請願署名運動に取り組み、2000年には清瀬市ダイオキシン規制条例制定につなげ、2004年には産廃業者と環境保全協定を結ぶなど、参加者から「これぞ市民活動」の声が挙がったほどです。私も多くを学びました。

その後「私も先生！」で紹介した活動や先生のお話は、どれも大変興味深く多くの方に見ていただきたいと、すべての発表ファイルをCOFUNEのホームページに掲載しています。



第13弾「子ども食堂」の光景

満席を記録した「子ども食堂」、清瀬市民の優しさを実感しました。



新型コロナの発生で清瀬市内のイベントが次々中止となるなか、2020年2月29日、第14弾「デンマークの福祉と教育」を実施しました。その翌日から公共の施設は一斉に閉鎖。ハラハラドキドキのなかギリギリ間に合ったわけです。それから3年、流行は続いているもののワクチン接種も広まり公共の施設は使用可能になりました。しかしそれでも「私も先生！」を実施する勇気がもてなかったのは、市民活動の縮小も一因ですが、高齢者に感染させたら・・・の恐怖が大きかったからです。そして皆さんに支えられ約10年続いてきた「私も先生！」ですが、ここで終了とさせていただきます。

感謝と終了の挨拶をかねた最終講演会は、私たちの命にかかわること、「自分の命を守り、大切な人の命を守るために、今、自分ができること『清瀬 de 防災』」としました。ちょうどこのCOFUNE通信をまとめている間に、トルコ・シリア大地震が発生し、甚大な被害と犠牲者のニュースに心が苦しくなっています。日本でも首都直下型地震はいつ発生してもおかしくないと言われています。人ごとではありません。知識・情報、今から集めて災害に備えて下さい。

「私も先生！」プロジェクト歴代先生

回	時期	内容	所属	先生
第1弾	2012年5月	ダイオキシン	ダイオキシン市民協議会	藤岡 純
第2弾	2012年9月	防災のイロハ	七小円卓会議世話人	長縄 宜幸
第3弾	2013年1月	子育て支援	NPO ウイズアイ NPO ビッコロ	増田 恵美子 野村 信子
第4弾	2013年5月	ほたる	清瀬ホタルの会	大槻 義顯
第5弾	2013年9月	街歩き山歩き	松山健やかクラブ いきいきハイキング	櫻井 智 新井 紀弘
第6弾	2014年1月	ラジオ体操	清瀬市ラジオ体操連盟 (実技)	原 剛 小柴 博子
第7弾	2014年9月	食がつかなく	お茶の間きよせ	矢澤 洋子
第8弾	2015年1月	俳句でつなが	石田波郷俳句実行委員	瓜生 宏司
第9弾	2015年9月	共に生きる	清瀬国際交流会	徳野 正己 佐竹 治男
第10弾	2016年1月	清瀬の自然	清瀬の自然を守る会	渡邊 正宏
第11弾	2017年1月	ペットと暮らす	ワンワン柳瀬川の会 きよせ猫耳の会	木村 芳信 松田 容子
第12弾	2018年1月	柳瀬川の魅力	川づくり・清瀬の会	宮澤 とよ美
第13弾	2019年1月	子ども食堂	おひさまネットワーク あけぼの子ども食堂 親子食堂	福本 麻紀 丸山 隆 西田 由美子
第14弾	2020年2月	デンマーク	清瀬・東久留米社会福祉士会 おひさまネットワーク	武田 嘉郎 木村 葉子
第15弾	2023年1月	清瀬 de 防災	防災士、防災介助士 清瀬みんなの防災ネット	長縄 宜幸 今中 真琴

清瀬に特化した防災情報の発信へ

第15回先生 長縄 宜幸 氏

まずは、10年間「私も先生」を開催して頂いた大森さんに敬意を表します。多くの清瀬のタレントを発掘、紹介して頂いたことは、わが街にこんなにも素晴らしい人材がいたんだとあらためて認識させていただきました。そして最終回に呼んでいただき本当にありがとうございました。

さて、今回は防災をライフワークとしている私の長野における台風19号の体験を中心に、清瀬ではどう対処すべきかをお話させていただきました。単身赴任中に長野市の千曲川決壊の災害に出くわし、被災現場にボランティアで足を運んで現場で見聞きしたものと被害を最小限に留めた地元の方の活動を紹介させていただきました。

結論からもうしあげますと、被害を最小限に留めたものは、日ごろの災害への備えと近所との結び付きです。現地長野市穂保地区では、昔から川の氾濫があり、地域の人が常日頃から水害の対策を講じ、近所の人達と連携して対処するという訓練が行われてきました。

しかしながら、長野の事例を清瀬にあてはめることは、ある意味難しく、都市部で近所との結び付きの希薄な清瀬において、どのように身を守るのかを考えました。その結論として「行政からいち早く災害情報を得る」ことが一番と結論づけ、災害情報の収集の仕方を紹介させて頂きました。

また、災害対策は自分が住んでいる清瀬での対策だけでなく、地方に住んでいる親戚や知人にもその地域に危険が迫っていれば積極的に電話などで、避難を呼びかけるなどをしてほしいとも訴えました。

最後の意見交換で、なかなか地域の防災意識が上がらないという意見がありました。自分にも言い聞かせているのですが、なかなか前に進まないが、継続的に悪あがきしながら防災活動を進めていきたいと思います。述べていただきました。(防災士、防災介助士)

(清瀬第七小学校避難所運営協議会会長)



COFUNE は高齢者向けに「ふまねっと運動」(事務局)やサロン「ふれあいど〜り松山サロン」(主催)を実施しています。また事務局として活動している「市民の健康を守る会(SKM)」は、子どもを受動喫煙から守り、子どもが自らの意思で最初の一本を口にしない喫煙防止教育に力を入れています。清瀬市内すべての小学校高学年で効果的な喫煙防止教室の実施を！これが次の目標です。

事務局：コミュニティふれあいネット (COFUNE) 大森正子
〒204-0021 清瀬市元町1-8-20 エスタ清瀬 403
Tel: 090-6009-4474, Mail: cofune_kiyose@yahoo.co.jp
URL: <https://cofune.net>

「清瀬 de 防災」の講演を通して

第15回先生 今中 真琴 氏



私は、これまで「清瀬みんなの防災ネット」の活動などを通じて様々な防災講座や訓練などを受けて参りました。そんな一受講生であった私が今回は講師としてアウトプットすることにより、市民の皆さんと共に防災について考え学ぶ機会を得られましたことを大変感謝しています。また COFUNE さんはじめ、他団体との交流により市民活動についての情報共有や活動に対するモチベーション向上ともなりました。

私自身は実家が阪神淡路大震災で被災し、また父方の親族は釜石在住も多かったため、東日本大震災で同じく被災しています。このように、決して他人事ではないという立場が防災について学び備えよう！という原動力になっています。

地震にしろ、水害にしろ、災害はともすれば命を奪い、財産や生活も奪います。私は災害時「死者行方不明〇人」というただの数字になりたくないのです。耐震化が少しでも進めば、瓦礫の下敷きになって圧死や火災で亡くなる方も減るでしょう。行政の迅速な避難誘導や市民の日頃の防災意識が高ければ、水害で濁流に吞まれ亡くなる方も減るでしょう。

また、「自助共助公助」と言われますが、やはり公助の担う役割は大変大きいと感じています。今回の講座を開催するにあたって清瀬市役所の災害時のトイレ対策などもヒアリングしましたが、市役所にはマンホールトイレ設備は無く、簡易トイレも備品として保管しておらず(避難所以外は通常コミプラにまとめて保管してあり状況に応じて配布するようです)向かいの避難所となる清小などの設備を使うとの返答で正直驚きました。(2/6 防災課再問い合わせ) 少々批判めいた事を書いてしまいましたが、清瀬みんなの防災ネットの目標である「どんな災害でも生き残り、混乱を最小限に！」を胸にこれからも活動して行きたいと思えます。

「清瀬みんなの防災ネット」は仲間大募集中です！少しでもご興味があればお気軽にお問い合わせ下さい。

この度は有り難うございました！

問合せ：090-3595-0254 (今中)

(清瀬みんなの防災ネット 代表)



これからも地域とつながる活動をしていきたいと思えますので、応援よろしくお願い致します。



会員募集
COFUNE活動に賛同して
いただける方、連絡を！
会費無料

